



JAPANESE B – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Monday 4 November 2002 (morning)
Lundi 4 novembre 2002 (matin)
Lunes 4 de noviembre de 2002 (mañana)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1 (Text handling).
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

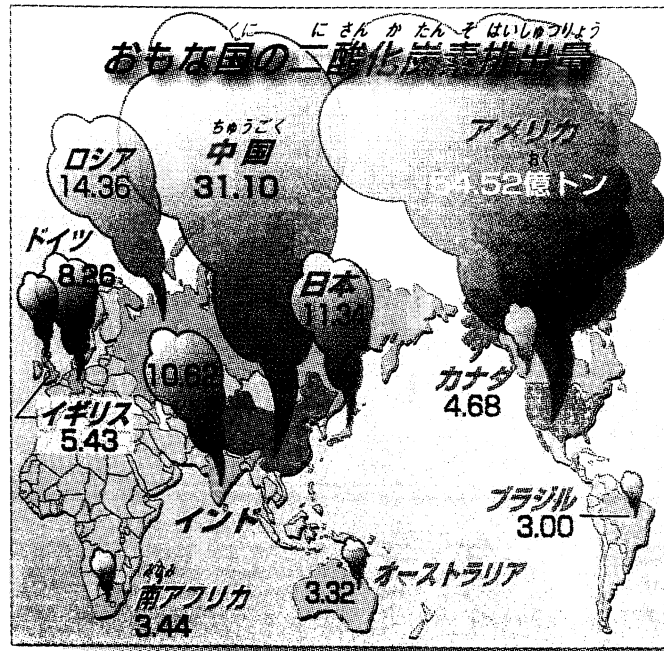
- Ne pas ouvrir ce livret avant d'y être autorisé.
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'épreuve 1 (Lecture interactive).
- Répondre à toutes les questions dans le livret de questions et réponses.

CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos requeridos para la Prueba 1 (Manejo y comprensión de textos).
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

A

CO₂ 出す量、アメリカと中国が多い



二酸化炭素 (CO₂) を出す量はアメリカと中国がとても多く、そのあとロシアと日本が続く。アメリカの研究所の調べでこんな結果が出ています。

二酸化炭素は石油などを燃やすと発生しますが、地球をとりまいて熱をとじこめる働きがあります。地球があたたかくなると、気象のバランスがくずれて、大雨が降ったり、全然降らなくなったりします。

このままではいけないと、多くの国が集まって、4年前に京都で会議を開いて、二酸化炭素を出す量をこれからどのくらい減らすか目標を決めました。これが「京都議定書」です。アメリカは「自分の国の経済にとって良くない。」と、この議定書に反対しています。

B

新しい IT 家庭学習

例

「ふしぎクラブ」はパソコンやインターネットを利用する IT 家庭学習システムです。教材は学年別で数学、国語、理科、社会などが楽しく学習できるようになっています。学習で分からなかったことは「ふしぎネット」(インターネット)で全国に百人以上いるアドバイザーに質問できます。この記事では会員のみなさんの声と「ふしぎネットワーク」の五藤^{ごとう}さんの話を紹介^{しょうかい}します。

11

読書が大好きという野村君は毎日「ふしぎクラブ」で予習してから学校に行っています。「ふしぎクラブ」を始めてから、きらいだった理科や数学も好きになりました。ゲームのように楽しみながら学べるのが気に入っているそうです。

12

中学生の山中さんは「CD-ROMをやってみて、ゲームのようで楽しかったです。毎日やっています。いっぱい勉強すると、ポイントがたまって、グッズがもらえるのが楽しみです。」と言っていました。パソコンを使う学習はおもしろいと感じたようです。



13

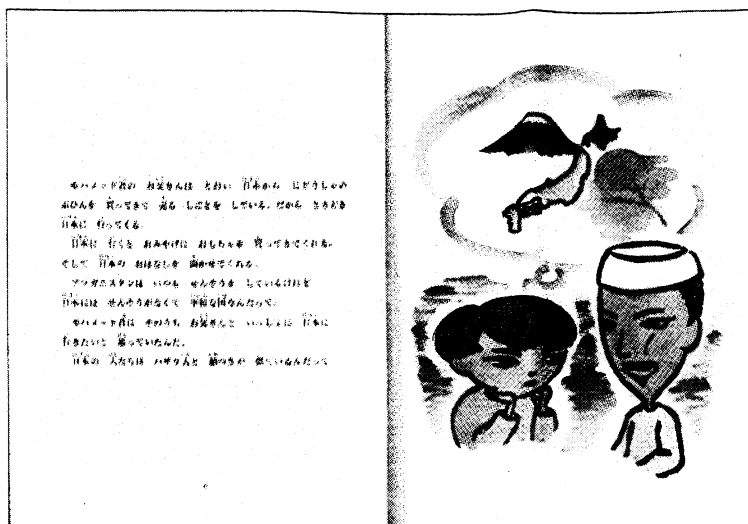
^{むすめ}「娘は晩ご飯を食べたあと、テレビも見ないですぐにパソコンに向かっていきます。自分から進んで勉強してくれるとは思いませんでした。」と山中さんのお母さんもおどろいています。



14

「私達が開発した「ふしぎクラブ」システムは最新の学習科学にもとづいて作られています。ですから、シミュレーションやロールプレイ等を使って、一日15分から30分ぐらいで学校で学習する内容を身につけることができます。また、アニメーションや音楽もついているので楽しく勉強できます。」

C 絵本で考えよう日本へ来たなんみん難民のこと



戦争のたえない国から、こまっけて日本へ逃げてきた人達を助けてあげよう。アフガニスタンから逃げてきた人達が日本で難民なんみん（注1）とみとめられないで、つかまえられるで、収容所しゅうようじょ（注2）に閉じこめられています。この人達を助ける活動をしているべんごし達が、絵本「アフガニスタンから来たモハメッド君のお話」を出して、日本の難民の受け入れかたを見直そうとよびかけています。

絵本の主人公はアフガニスタンに住む、ハザラ人の男子、モハメッド君。ある日、タリバーンというグループの人が来て、お父さんをころして、お兄さんをどこかへ連れて行ってしまいます。モハメッド君は生き残るために、お母さんが用意してくれたお金で一人で「平和な国、日本」へ向かいます。ところが、日本の入国管理局かんにりきぎょく（注3）はモハメッド君を悪い人だと決めつけて、つかまえて収容所に閉じこめてしまいます。

絵本を書いたのはべんごしの大貫さんおおぬき。大貫さんは他のべんごし達といっしょに、入国管理局につかまえられて、収容所に閉じこめられたアフガニスタン人九人を助ける活動をしています。入国管理局は九人を戦争から逃げてきた「難民」だとみとめないで、「決まりをやぶって日本に入ってきた人なので、アフガニスタンに送り返す。」としています。

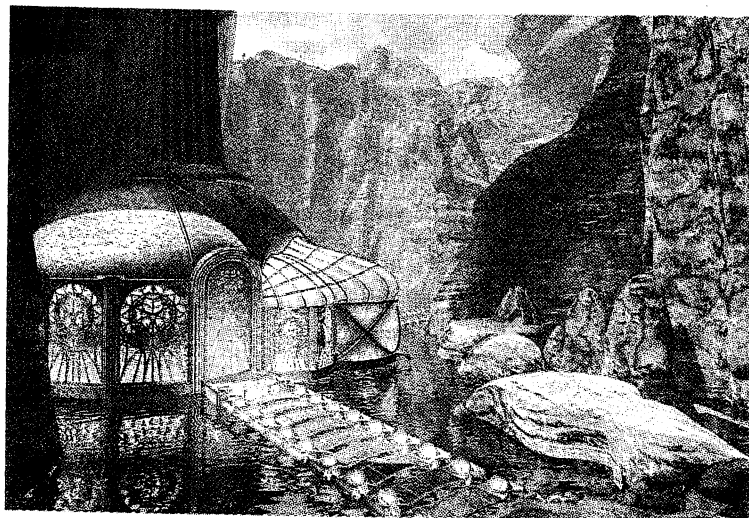
「どうすればこの人達を助けようと日本のみんなに思ってもらえるだろうか。」そう考えた大貫さんは九人の生活を一つの絵本にすることにしました。自分の息子むすこにお父さんがどんな仕事をしているか知ってもらいたいという気持ちもあつたそうです。絵本には九人についての新聞記事やアフガニスタン難民についての情報、小泉首相こいずみしやうせいに送るはがきなどもついています。



大貫さん

- (注1) 難民なんみん＝自分の国での生活があぶないから、他の国に住んでいる人。
- (注2) 収容所しゅうようじょ＝多くの人がいっしょに住んでいる所。ここから外へ出ることはできない。
- (注3) 入国管理局かんにりきぎょく＝日本に入ってくる外国人について調べたり、決めたりする役所。

D

スリー
ミスト III : エグザイル

人気のアドベンチャー (ぼうけん)・ゲーム「ミスト」シリーズの3作目「ミストIII : エグザイル」が X box ^{エックス ボックス} に登場した。もともと海外生まれのこのゲームは日本の物にはない楽しさがたくさんある。

ゲームの中には5つのふしぎな世界があって、プレイヤーは現実では見られない景色^{けしき}をながめることができる。ゲームの目的はこの世界をぼうけんして、ぬすまれた一冊の本を取りもどすことだ。

シリーズの特徴^{とくちょう}として、いろいろな情報が文字として画面に表示されることはない。また、プレイヤーはいろいろな場所であやしい (注1) ことを発見するはずだが、あやしい場所をしっかりと見つけるには、注意深さが必要になる。あやしい物があることに気づかないと、いつまでも先に進むことができないのだ。

このゲームでふしぎな別世界をぼうけんしてみよう！

注1 あやしい=変な

